

平成16年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	45	学校名	県立銚田第一高等学校					課程	全日制課程			学校長名	邊田 益男			
教頭名	照山敏明										事務(室)長名	新堀俊一郎				
教職員数	教諭	48	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	3	実習教諭, 実習講師, 実習助手	2	事務職員	4	技術職員等	3	計	64
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	139	141	144	137	172	141			455	419		22			

2 目指す学校像

多様な進路希望を持った生徒の自己実現を可能にする県内トップレベルの進学校
 文武不岐の伝統に基づき活気あふれる特別活動が展開される学校
 豊かな人間性とたくましさを持った生徒が、自主的・自律的・意欲的に生き生きと活動する学校
 保護者、地域社会から支持され信頼される開かれた学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 進路意識が不十分なまま進路選択をしている生徒がいる。 生徒の希望進路が多様化している。また、大学入試も複雑化している。進路指導に二層の工夫が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の生き方あり方を含めた進路意識の向上策や多様化している進路希望に対応できる教育課程の編成や履修方法の検討が必要。
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 希望進路を実現するための基礎学力が不足している。その対策が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時間の確保や良質な授業提供のための研修等の充実、家庭学習時間の増加方法など基礎学力充実のための工夫や研究が必要。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 学習実態調査の結果で、家庭学習時間が1時間以下が72%いる。 運動部、文化部ともに活性化しているが、まだ県大会を制覇したり、関東大会や全国大会への出場数は少なく物足りない。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部指導者の招聘や指導法の工夫により一層の部活動の活性化をはかる必要がある。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 少数だが服装や髪型などで注意を受けたりマナーに欠ける生徒がいる。また、心の問題でケアが必要な生徒が見うけられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校的な服装指導等に関する取組や教育相談体制の充実が必要である。
開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校には日頃の教育活動を評価し、それを外部に説明する責任が課せられているが、まだ不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員制度の活用や広報活動のあり方など改めて地域社会との連携について、新しいシステム作りが必要。

4 中期的目標

希望進路の実現をはかるための確かな学力を身につけさせるため、学習指導や進路指導体制の見直しや新しいシステムの検討などを行い、生徒の多様な希望に応える指導体制を充実させる。
 自己の将来の生き方あり方、高校や大学で学ぶ意義や目的など進路意識を高めるための取組をより一層推進する。
 学習だけでなく、部活動や学校行事等の活動を活性化し、それらを通じて自主自律の精神や豊かな人間性を育む。
 広報活動の充実や学校評議員制度の活用など地域との連携をはかり、地域の期待に応える学校づくりを進める。

5 年次ごとの重点目標

年次	重点目標	具体的目標	達成状況
1年次	基礎学力の向上に努める。	・課外や補習の出席率を上げ(70%)、基礎基本の徹底理解を図る。 ・家庭学習習慣の定着を促進する。家庭学習1時間未満を50%に。 ・シラバスの改善とその活用方法を工夫する。	
	授業の質の向上に努め、個に対応した授業の研究を行う。	・授業公開を推進し、授業研究の機会を増加させる(春と秋の2回)。 ・数学の他に習熟度別授業を増加させる。英語の実施。 ・選択幅を増やすための教育課程の検討を行う。	
	進路意識の向上と進路実績の向上に努める。	・個人面接、大学まるごと体験等を行い、進路意識の向上をはかる。 ・センター試験受験者160名以上。国公立大合格者10%アップ。	
	部活動の活性化を一層進める。 マナーや規範意識の向上に努め、豊かな人間性を培う。 学校評価を推進する。	・関東大会、全国大会等の上位大会への進出生徒数を増加させる。 ・全校的なマナー向上、規範意識の確立に取り組む。 ・ボランティア活動などの体験活動への取り組みの励行。 ・自己評価、外部評価の内容や評価方法、様式などを検討充実させる。	
2年次	基礎学力の一層の向上と授業の質の向上に努める。	・課外や補習の出席率を更に上げ(80%)、基礎基本の徹底理解を図る。 ・家庭学習習慣の定着を一層促進し、家庭学習1時間未満を40%に。	
	個に対応した授業の研究を継続して進める。	・習熟度別授業を継続して実施し内容の充実を図る。 ・新しい単位修得システムや教育課程の検討を更に進める。	
	進路意識の一層の向上に努め、進路実績も一層向上させる。	・大学まるごと体験等各種取り組みの継続と内容の充実をはかる。 ・センター試験受験者170名以上。国公立大合格者10%アップ	
	部活動の一層の活性化に努める。 マナーや規範意識の向上に努める。 学校評価を推進する。	・上位大会への進出生徒数や部をより増加させる。 ・全校的なマナー向上、規範意識の確立に取り組む。 ・自己評価、外部評価の内容や評価方法、様式などの再検討と改善。	
3年次	基礎学力の一層の向上に努める。	・課外や補習の出席率を上げ(90%)、家庭学習1時間未満を30%にする。	
	個に対応した指導を充実させる。	・新しい単位修得システムや教育課程の実施体制をつくる。	
	進路実績を更に向上させる。	・センター試験受験者180名以上。国公立大合格者10%アップ	
	部活動の活性化を継続する。 マナーや規範意識の向上に努める。 学校評価の定着をはかる。	・上位大会への進出生徒数、部数を更に増加させる工夫を続ける。 ・全校的なマナー向上、規範意識の確立に取り組む。 ・ホームページへの掲載など広報活動も一層活性化させる。	